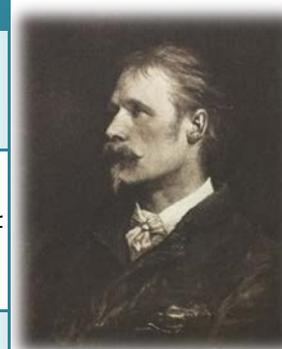


No	タイトル	
1	『哀れなマッチの可哀想な本当のお話』 The true, pathetic history of poor Match / by Holme Lee. London : Smith, Elder , 1863. [準貴重書 823.8/L47]	ウォルター・クレインが18歳のときの最初期に挿絵を描いた本。木口木版で、版刻はエドモンド・エヴァンス(1826-1905)。児童向けの図書で、4枚の挿絵が描かれている。作者のホーム・リー(Holme Lee)はペンネームで、本名は、ハリエット・バー(1828-1900)。彼女は、センチメンタルなロマンスを得意とし、1882年までに30冊ほどの小説を出版した。
2	『アニーとジャックのロンドン見物』 Chattering Jack's picture book : containing Chattering Jack ; How Jessie was lost ; Grammar in rhyme ; Annie and Jack in London / with thirty-two pages of illustrations by Walter Crane ; printed in colours by Edmund Evans. London : G. Routledge and Sons , [1876?]. [準貴重書 398.8/C89]	『おしゃべりジャック』、『迷子になったジェシーのお話』、『韻文による文法』、『アニーとジャックのロンドン見物』の4冊を合わせた本になっている。初版は、『おしゃべりジャック』が1867年。『迷子になったジェシーのお話』、『韻文による文法』が1868年。『アニーとジャックのロンドン見物』が1869年。『アニーとジャックのロンドン見物』では、第1回万国博覧会(1851年)の会場建築であり、その後ロンドン南郊外のシドナムに移設されたクリスタルパレス(水晶宮)を訪問する場面などが描かれている。
3	『妖精の船』 Walter Crane's picture book / containing sixty-four pages of pictures, designed by Walter Crane, and printed in colours by Edmund Evans. London : G. Routledge and Sons , [187-?]. [準貴重書 028.5/C89]	クレインは1865年以降「6ペンス・シリーズ」として、1冊6ペンス(現在の日本円で500円程度)の子ども向け絵本を刊行した。当時のイギリスにおける、子供たちに質の高い絵本を与える新たな風潮の影響を受けている。 「6ペンス・シリーズ」の特徴は、8ページと限られたページの中で、絵と文字が装飾的に美しく配されている点である。題材として童話やマザー・グースが取り上げられた。本作もマザー・グースの詩が題材となっており、擬人化されたネズミやアヒルがコミカルに描かれている。 また、当時のクレインの作品は強い輪郭線、フラットな色の塗り方、しっかりとした黒を使う、そして大胆な対角線の構図など、日本の浮世絵の影響を強く受けている。展示箇所の船の絵にその特徴をよく見出すことができる。
4	『赤頭巾ちゃん』 Red Riding Hood's picture book : containing, Little Red Riding Hood ; Jack & the beanstalk ; The forty thieves / with the original coloured pictures & some new additions by Walter Crane ; engraved & printed in colours by Edmund Evans. London : J. Lane, the Bodley Head, [1898]. (Walter Crane's picture books : re-issue ; v. 4) [準貴重書 028.5/C89]	本作で最も有名な、赤頭巾と狼の対話の場面である。 “Red Riding Hood”は直訳すると赤い乗馬用の頭巾だが、赤いマントを羽織った姿で描かれている。同時期の他の作家の作品では赤い小さな帽子をかぶった姿で描かれることもあり、それらと比較して現在のイメージにより近い描写がされている。 また、この作品の結末は現在広く知られるものとは異なり、赤頭巾は狼に食べられる直前で猟師に助けられるが、おばあさんは救出されないストーリーとなっている。 この時期のクレインの作品は、輪郭線にセピア色を使用しており、それ以前の黒を使用した時期と比較して明るい印象が特徴となっている。
5	『子どものための音楽劇シンデレラ』 The children's musical Cinderella : told in familiar words to familiar tunes / by William Routledge and Louis N. Parker ; with pictures by Walter Crane. London : G. Routledge and Sons , 1879. [準貴重書 398.2/R86]	本作は6ペンスのトイ・ブックとして刊行された『シンデレラ』に、パーカによる楽曲とラウトレッジによる歌詞をつけ、子供向けの音楽劇としてあらためて発売された。そのため価格は6ペンスから2倍の1シリングに値上げされた。しかし、売り上げは伴わず、『シンデレラ』以外のタイトルがこのような譜面付きの形態で刊行されることはなかった。 展示箇所はシンデレラと王子の対面の場面で、さまざまな国の衣装を身につけた観客に取り囲まれる華やかな構図となっている。当初発売された6ペンスのトイ・ブックでは、楽譜の位置にストーリーが配置されていた。
6	『眠り姫』 The sleeping beauty picture book : containing The sleeping beauty, Bluebeard, The baby's own alphabet / with the original coloured designs by Walter Crane. New York : Dodd, Mead and Company , [1911]. [準貴重書 028.5/C89]	6ペンスのトイ・ブック・シリーズ最後の作品である。国王夫妻に可愛い姫が生まれ、祝宴に妖精が駆け付けるところから物語が始まる。しかし、祝宴に席を設けられず怒った妖精が復讐として語った不吉な予言を発端に、のちに姫は紡錘に刺されて深い眠りに落ちてしまう。本作は、王宮の兵士や吟遊詩人、動物たちが、まるで時が止まったかのように眠り続けて100年を過ぎた場面である。左側には、通りがかりの王子が登場している。誰もがよく知っている物語であるが、元々はヨーロッパ各地の民話で、ペローやグリム兄弟の童話集に収録されていた。
7	『美女と野獣』 Goody two shoes' picture book : containing Goody two shoes, Beauty and the beast, The frog prince, An alphabet of old friends / with twenty-four pages of illustrations by Walter Crane ; printed in colours by Edmund Evans. London : George Routledge & Sons , [1875?]. [準貴重書 028.5/C89]	美しい横顔の女性“Beauty”と、イノシシ風でありながらも気品漂う服装の野獣が大変印象的な一枚で、宮殿の一室で長椅子に座り言葉を交わしている場面を大変華やかな色使いで描いている。 今までの「6ペンス・シリーズ」とは異なる画面構成の変化に、お気づきいただけるだろうか。版型が大きくなり、値段も2倍の1シリングで販売されるようになった。6ペンスものは同一ページに挿絵とテキストをデザインしていたが、1シリングものでは挿絵とテキストを別々に掲載している点が特徴的で、ページ全体を使って自由に表現されている。色も7色と輪郭線の黒が用いられており、豪華な挿絵を見ることができる。



Walter Crane

(1845-1915)

ウォルター・クレインは、19世紀後半のイギリスで挿絵画家・画家・デザイナー・社会主義活動家など多方面で活躍した人物です。現代の絵本の基礎を築いた重要な

画家の一人とされ、トイ・ブックと呼ばれる子供向けの絵本から大人向けの挿絵本まで、数々の作品を世に送り出しました。また、ウィリアム・モリスとともにアーツ・アンド・クラフツ運動を推進したデザイナーでもあります。

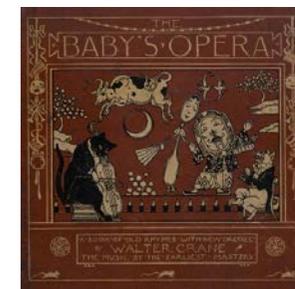
中央大学図書館ではクレインの絵本を多数所蔵しています。本展示では『赤頭巾ちゃん』『アラディンと魔法のランプ』『眠り姫』『美女と野獣』といったポピュラーな絵本に加え、日本の浮世絵の影響を強く感じさせる『妖精の船』や、クレインの「フラワー・シリーズ」の一つである『フロラの饗宴』などをご覧ください。

クレインの美しい絵本の世界を、この機会にぜひお楽しみください。



7.『美女と野獣』

No	タイトル	
8	『古いお友達のアルファベット』 The alphabet of old friends / [Walter Crane]. London : George Routledge and Sons , [187-]. [準貴重書 028.5/C89]	クレインが愛して止まなかったマザーグースの唄に出てくる単語の頭文字と絵を合わせたアルファベット本。3種類のうちの1冊。その他には、『おかしなABC』、『幼子自身のアルファベット』がある。1866年初版のクレインの作品『6ベンスの唄を歌おう』においても触れている。王妃が居間でパンに蜂蜜をつけて食べている場面がここにも描かれている。
9	『アラディンと魔法のランプ』 Aladdin's picture book : containing Aladdin ; The yellow dwarf ; Princess Belle-Etoile ; The hind in the wood / with twenty-four pages of illustrations by Walter Crane. London : G. Routledge & Sons , [1877?]. [準貴重書 028.5/C89]	父親を亡くしたアラディンは母親と貧乏な暮らしをせざるを得なかった。ある日、アラディンの叔父と名乗る魔法使いから指輪を託され、秘境に導かれ魔法のランプを手に入れるところから物語が始まる。持っ者の願いを叶えるこのランプの導きにより、多くの富をもたらすことになるが、一方で、行く手には困難が待ちうける。諸説あるが、「アラビアンナイト」の代表的な物語の1つと言われている。はっきりとした黒く太めの輪郭で描かれた挿絵には、登場人物の装いや動植物、装飾品など、煌びやかな表現を見ることができる。
10	『幼子のオペラ』 The baby's opera : a book of old rhymes with new dresses / by Walter Crane ; engraved, & printed in colours by Edmund Evans ; the music by the earliest masters. London : G. Routledge and Sons , [1877?]. [準貴重書 398.8/C89]	主にマザーグースの唄が収められた楽譜集。楽譜のまわりには唄にした挿絵が施されている。表紙には有名なマザーグースの唄『ヘイ デイドゥル デイドゥル』をモチーフとした絵が描かれている。さらに裏表紙では鶴(Crane)が『ヘイ デイドゥル デイドゥル』の楽譜をくわえている。
11	『幼子の花束』 The baby's bouquet : a fresh bunch of old rhymes & tunes / arranged & decorated by Walter Crane ; cut & printed in colours by Edmund Evans. London ; New York : F. Warne , [18-]. [準貴重書 398.8/C89]	『幼子のオペラ』と対をなす作品で、マザーグースの唄のほか、ドイツ語やフランス語の唄も含まれた楽譜集になっている。『幼子のオペラ』と同様、楽譜のまわりには唄に関する挿絵が見られる。表紙と裏表紙は、一見歌には関係のない模様のようなのだが、よく見ると『Little man & maid』や『The Little cock sparrow』など、『幼子の花束』に出てくる唄の挿絵が描かれている。
12	『幼子のイソップ』 The baby's own Æsop / being the fables condensed in rhyme with portable morals pictorially pointed by Walter Crane ; engraved and printed in colours by Edmund Evans. London : Routledge , 1887. [準貴重書 028.5/C89]	幼子シリーズの最後の作品。表紙にはツルやカエルなど、イソップ童話に登場する動物たちが描かれている。中には『北風と太陽』、『ウサギとカメ』などお馴染みのイソップ童話を短くまとめた文章と挿絵が描かれている。
13	『幼子三部作』 Triplets : comprising, The baby's opera, The baby's bouquet and The baby's own Æsop / with the original designs in colour by Walter Crane ; printed by Edmund Evans. London : G. Routledge & Sons , 1899. [準貴重書 398.8/C89]	幼子シリーズの3冊を1冊にまとめた限定本。本作の展示箇所は『幼子のオペラ』より『My lady's garden』。“and pretty maids all in a row”の部分を一列に並んだ花の中に人の顔を描いて表現している。
14	『フローラの饗宴』 Flora's feast : a masque of flowers / penned & pictured by Walter Crane. London : Cassell , 1889. [準貴重書 821.8/C89]	本作は『夏の女王あるいは百合と薔薇の競馬試合』、『イギリスの古い庭園の花の幻想』とあわせて「フラワー・シリーズ」と呼ばれる。挿絵総枚数40点にも及ぶ本作では、花の女神フローラが花々を冬の眠りから覚ましていく様子が色鮮やかに描かれている。クレインの美しい手書きの文字とともに、クロッカスやラッパ水仙、クリスマス・ローズなどの擬人化された花が次々に登場する。これまでの木口木版によるカッチとした絵とは異なり、カラーリトグラフならではの曲線的でやわらかい色調が印象的である。
15	『花の結婚式』 A flower wedding : described by two wallflowers / decorated by Walter Crane. [London] : Cassell , 1905. [準貴重書 028.5/C89]	1905年に出版された『花の結婚式』には、ほぼ全編にわたって花にまつわる言葉遊びを見ることができる。“Lad's Love (青年の恋氏・キク科ニガヨモギの一種)”が“Meadowsweet (香し草原嬢・セイヨウナツユキソウ)”に求婚し、二人は結婚式を行う。式に参列する人々の中にはヘンリー8世も登場するが、“Good King Henry”はアカザ科の植物の意味も持つ。ガチョウにはハーブの一種であるセージが添えられており、よく見るとガチョウの足は植物のアカザ(Goosefoot)になっている。物語の随所に遊び心があふれた作品である。



10. 『幼子のオペラ』



14. 『フローラの饗宴』

